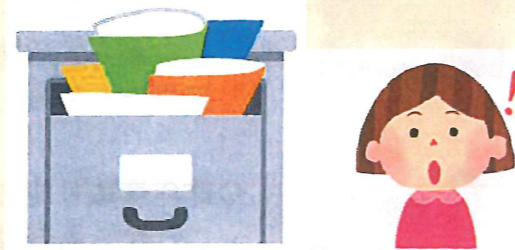


～ 身近にできる「たすけあい・支えあい活動」を考えてみましょう ～

「自分の力を地域の力に！！」・・・地域の方と一緒に協力しながら、自分の力を地域のたすけあい・支えあいの活動に活かしていきましょう。

見守り

日頃から、あいさつや声かけなどを行って地域内で顔の見える関係をつくり、お互いに気にかけてあえるような地域づくりを進めてみましょう。「いつもと違う」「何かおかしい」と感じる人を発見したら、地域の方や専門の相談機関等へ連絡しましょう。



必要に応じて、市や相談機関等に連絡することが大切です。

新聞や郵便物がたまっている・・・

居場所づくり

誰でも気軽に立ち寄れる地域の憩いの場（居場所）があると、交流を通じて日頃の悩みなどを相談できる関係が築きやすくなり、住民どうしのつながりや支えあいを育むことができます。また、地域の情報を共有することができます。

最近、Aさんをみないね・・・



帰りに様子を見に行ってみよう

地域活動への参加

地域の行事や活動の場へ積極的に参加することで、子どもから高齢者までの幅広い世代の地域住民のつながりができ、日頃の見守り活動や防犯などにつながります。



生涯現役！

元気な高齢者の皆さんの積極的な参加を！！

支えあいのまちづくりを生きがいにしてみませんか？地域の方々と交流を深めながら活動することは、自身の健康づくりにもつながります。

まめ☆だすか (ささえあい あったか ネット 十文字) 通信

～地域みんなで、たすけあい・支えあいに取り組もう～

第2号
H29. 9. 3 発行

発行 第2層 十文字生活支援協議体 事務局
(社会福祉法人 横手市社会福祉協議会 十文字福祉センター内)
住所：十文字町梨木字御休ノ上 29 TEL：42-5858/FAX42-4577

■ 十文字生活支援協議体の取り組み

十文字生活支援協議体では、地域のたすけあい・支えあい体制を推進していくため、まずは、地域住民の意識啓発に重点的に取り組むことにしました。

特に、子どもの頃からのたすけあい・支えあいの意識啓発が重要との意見から、昨年度から次のような取り組みを行っています。

(※管内4小学校のPTA会長もメンバーに加え、現在17名で活動中。)



①小学生を対象にした地域のたすけあい・支えあい意識啓発授業



(昨年の授業の様子／小学4年生を対象に実施)

②地域イベントでの意識啓発活動 (十文字まるごとマルシェ／我ら町の営業本部)



(昨年の様子／福祉・健康O×クイズ、アンケート調査)

十文字生活支援協議体のことを地域の皆さんに広く知ってもらおうと、『まめ☆だすか(ささえあい ネット 十文字)』という愛称にしました。これからも宜しくお願いします。

→生活支援協議体の設置に至った経緯は、次のページで紹介しています。



■ 地域のたすけあい・支えあい体制を構築するために生活支援協議体を設置

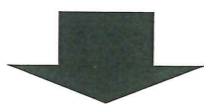


現在、横手市の高齢化率は約35%、十文字地域全体では約34%となっており、10年後の平成38年には、40%を越え、今後も、全国平均よりも15～20年早く、**少子高齢化**が進むと言われています。

また、当地域は、こうした少子高齢化や人口減少に加え、高齢者世帯の増加、若者の県外流出、**核家族化**等の課題に加え、学校の統廃合も進んでいます。

今は昔と違い、ご近所付きあいや地域のつながりが薄くなり、町内会や地域行事を続けることが困難になっているところもあります。また、今後は、働く人が不足し、**介護サービス**の提供が困難になることも予想されています。

私たちは、地域のみならず話し合い協力しながら、“地域のことは地域で”を基本に、地域福祉活動やご近所付きあいによる地域のたすけあい・支えあい活動を推進していく必要があります。



こうした中、平成30年度までに全国の市町村区域では、地域の現状や課題、新しい介護予防・生活支援サービスを検討する「生活支援協議体」（構成員：地域住民、行政等関係機関・団体等）の設置を進めることになり、十文字地域では平成27年度末に設置されました。（平成29年度：横手市全地域に設置）また、今後はこの協議体の中心となる「生活支援コーディネーター」の配置をする予定となっています。

【関連用語解説】

● 少子高齢化（高齢化率）

出生率の低下により子どもの数が減ると同時に、平均寿命の伸びが原因で、人口全体に占める子どもの割合が減り、**65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が高まる**ことを言います。

【参考】平成26（2014）年現在の高齢化率は、最も高い秋田県で32.6%、最も低い沖縄県で19.0%です。



● 核家族（化）

夫婦とその未婚の子どもで構成される家族のこと。ただし夫婦のみの世帯や一人親世帯も含まれます。都市化や高度経済成長とともに、3世代同居などの大家族世帯が減少し核家族化が進行したと言われています。



● 介護サービス

介護保険法で給付（提供）されるサービス。訪問介護やデイサービスなどの在宅サービスと介護保険施設（特別養護老人ホームなど）での施設サービスがあります。



■ これまでの活動の振り返り、今後の取り組みについて



◇福祉分野以外の構成員の参画は、これまでの固定概念にとらわれずに、多様な意見が活動に反映されただけでなく、新しい福祉ネットワークの形成ができました。今後は構成員については、議題や活動にあわせた方を追加しながら、活性化・ネットワークの拡充、民生委員等福祉関係者の参画・連携等を図っていく必要があると考えています。



◇昨年度取り組んできた“地域住民や子世代の意識啓発活動”については、これからも活動の柱として、今年度以降も継続して実施していく予定です。
〈今後の取り組み（案）〉

- ①＝町内単位や団体、サロン等での出前講座や研修等に。
- ②＝小学生（4年生）と『中学生（1か2年生）』を対象にした意識啓発授業に。PTA（親世代）を巻き込んでの授業に。



◇福祉＝「たすけあい・支えあい」だけでなく、地域の活性化・地域間交流等の促進に繋がってほしいと考えています。

◇他地域では、協議体の設置と平行して、研修や勉強会を開催しており、当協議体においても、こうした研修等を計画的に実施していく必要があると考えています。

◆ 当面の課題 = 生活支援コーディネーターの人選（配置）です。

→ それで、『コーディネーター』を募集します！！

（十文字町在住の方で、興味・関心のある方は、事務局までお問い合わせください。連絡待っています。）



～お知らせ～

「地域で支えあう まちづくり研修会（仮称）」開催予定



- ◎日 時 10月28日（土）13：30～15：30（※12:30～受付）
- ◎会 場 十文字文化センター ホール
- ◎内容等 実践発表・講話発表者



講師：登米市社会福祉協議会生活支援コーディネーター（予定）
「登米市社会福祉協議会で進めている生活支援体制整備事業について」
“自分たちの暮らしは自分たちで守り、支えよう！”
～たすけあい・ささえあい・おらほの宝～（仮題）

※なお、研修会のお知らせ・ご案内については、後日改めて、回覧版や地域の関係者、介護事業所、福祉施設、企業等の皆様にお知らせをする予定です。